**「韓国DMZ世界平和公園に関する考察」に対するコメント**

**大脇 準一郎**

この論文は、「北東アジアの平和に貢献する」ことを願って、朴槿恵朴大統領が就任間もない2013年5月8日、米国上下院合同演説で発表した「DMZ世界平和公園構想」を考察したものである。「DMZ世界平和公園構想」がどのような経緯を経て、朴政権が発表されるようになったのか、現状と今後どう取り組もうとどう取り組もうとしているのか小生も知りたいところである。

　小生の知る範囲で申せば、DMZ平和ゾーン構想は、2000年8月18日、ニューヨークの国連本部第二会議場で開催された世界平和超宗教超国家連合（ＩＩＦＷＰ）主催の「アセンブリ2000」（以下、Ａ2000と略称）の開会総会で、同連合創設者である文鮮明師により提案されている。（注１）　以下これを参考に鄭氏の4つの提言に沿って鄭氏のコメントをし、最後に5番目として小生の総合的所見を述べたい。

まず第1に、鄭氏は、世界平和公園構想を実現するには、韓半島を取り巻く4大強国との調整と共に、北朝鮮を対話の場へ引き出し、信頼のプロセズ作りをすることが何よりも大切である。そのためには、セマウル運動のような公的開発援助（ODA）をすることを提言している。これは、一般的に妥当な政策として信じられている。小生はこれに加え、文鮮明先生の平和へのアプローチに注目をすることを提案したい。

文先生は、4大強国の利害が衝突する接点にある朝鮮半島は、強大国との関係を円滑にしながら、世界平和を発展させるベアリングになるべきこと、そのためには、人種、国境、宗教を超えて、1つになる平和思想を持つ必要性を強調されている。（注2）

　1991年11月、世界を驚かせた文先生の北朝鮮訪問、金日成、金正一首相の死後も、北朝鮮に対する統一グループの開発援助は継続され、北との信頼の絆は続いていることはご存知の通りである。水面下でもこの民間外交ルートの信頼関係を生かすことにもっと注目すべきではなかろうか？

鄭氏は世界平和公園構想を実現する第2の提言として、ニューヨーク、ジュネーブ、ウイーン、ナイロビに次いで第５の事務局を韓半島のDMZ内に設置することを提案している。　　　　　「世界７５億人の人口の６０％（４５億人）を占める」アジアに国連事務局を置くことは至極妥当な提案である。また、世界の紛争解決と低開発国の発展のための設置という提言も説得力がある。

　　ヨーロッパで誕生した国際連盟、北米に誕生した国際連合、A. トインビーが指摘をしているように「いずれも人民に直結した国際機関ではない。」　戦後体制、連合国側に偏した国際機関に代わり、新しい世界秩序を反映した第３の国際機関の必要性が叫ばれて来た。一例を挙げれば、文鮮明師は, １９６０年代当初から東北アジア（旧満州）に第２国連構想（世界平和聨合）を唱導され、統一運動のゴールを示していらっしゃる。A2000において、文先生は、そのための準備段階としての当面の国連の刷新案として新たに宗教国連の設置、すなわち、各国家の利益を代弁する既存の国連を下院とし、新たに精神世界の指導者たちによって構成される宗教議会を上院とする二院制を提案されている。　文先生の提言のような、長期的ビジョンと、中期的段階的な改革をベースにして、国連を活用する鄭氏の第2の提案を支援したいと思う。

鄭氏は第３の提案として世界平和公園構想の生態的価値に注目しながら、世界平和公園造成の具体策としてＤＭＺ地域開発３段階戦略を提言している。すなわち、それは、ビジネス的手法により、観光資源を活用し、地域産業の新興することを推奨している。

これはＡ2000で文先生が提唱した提言、「紛争地帯を平和地区に、38度線地帯を平和ゾーンに」を敷衍したものである。

このなかで文先生が提唱されている平和基金構想は世界平和公園プロジェクトを推進するイニシアルコストとして強力なバックアップになるであろう。鄭氏や提案する従来の開発手法に、これを補完することによってこのプロジェクト成功に弾みがつくことが大いに期待される。

鄭氏はこのプロジェクトを実現するため第4の提言としてコントロール・タワーの設置を訴えている。任期満了まで後2年迫った朴大統領は、政権の歴史的成果を残すためにも、この世界平和公園構想に全力投入することが期待したい。国連のリーダーシップの下（注３）、文先生の提案のように、世界の宗教人を始めとする指導者層、民間人がこのプロジェクトに積極的に支援し、一日も早く「世界唯一の分断国家」の悲劇を終焉させる秋である。

北東アジアの平和に貢献するいろいろな試みがこれまで行われている。（注４）

時間の関係上、そのいくつかを紹介する時間が取れないのは残念であるが、

小生もその創設時関わって来たものとして、ＰＷＰＡ、ＩＣＵＳの使命につき所見を述べ、小生のコメントを終えたいと思う。

世界平和教授協議会は文先生の提唱により、北東アジア3国で始まった。

その目指すところは、西欧の物質偏重の科学技術近代文明の行き気づまりを打開し、北東アジア３国に残る伝統的な精神文化を再評価して、東洋と西欧が共に手を携え、21世紀の新文明を築こうと言うものである。

1972年ニューヨークから発足したＩＣＵＳは、西欧から「科学と価値」をテーマに、他方1973年ソウルから発足したＰＷＰＡは東洋の側から平和をテーマに探求して来た。

「何のための科学か？」価値の探求する時、絶対価値を問題とせざるを得ない。また、

「平和の探求」も「如何に心身の統一を図ることができるか」に帰結し、それを為し得るのは知識やお金でも無く、愛であるという結論に到達する。　西欧であろうと東洋からのであろうと結局は神様の愛と出会うことになる。

文先生は、学者に支援を惜しむことなく継続し、10年目にその結論を私見として開陳された。（注５）　神の愛を中心としてこそ、東西が出会い、世界の平和統一が為されることをあらかじめご存知であった文先生の、生前の壮大なビジョン、その周到な計画、忍耐、ご努力に改めて敬意を表したい。日韓は目先のことで言い争っている時でない。この文先生の唱導された壮大な夢の実現に向け、共に手を携え、世界平和実現へ向け、邁進すべき時であると思う。（注６）

「教授たちを如何に命も道へ導くか、その道を短縮しなければならない」と真剣な面持ちで語り語りかけられたことを忘れることができない。

生前文先生が強調されたように知識の限界とその役割を知り、学者のとしての本分を果たそうではありませんか！各位の一層の奮起とご活躍を祈念し、このコメントを終わりたいと思う。

～～～～～～～～～～～～～～～～～～～～～～～～～～～～～～～～～～～～～～～

（注１）：その中で文師は3つの提言をしている。

「国連の刷新と「平和の文化」建設」2000.8.18, N.Y国連本部第二会議場、

世界平和超宗教超国家連合（IIFWP）主催の「アセンブリ2000」開会総会、

基調講演、3つの提言の要旨。

　 １、宗教協議会の設置

国家の代表たちによって成された既存の国連を、各国家の利益を代弁する下院に代えて考えることができます。一方、著名な宗教指導者など、精神世界の指導者たちによって宗教議会、あるいは国連の上院を構成することを深刻に考慮するようお願いします。このとき、超宗派的な宗教議会は、地域的な個々の国家の理解を超えて、地球星と人類全体の利益を代弁すべきでしょう。

　両院が相互尊重し、協力することによって、平和世界を成し遂げるうえで大きく寄与することができることでしょう。世界の指導者たちの政治的経綸は、世界の偉大な宗教指導者たちの知恵とビジョンによって効果的に補完されうるのです。

２、 平和地区の設置

世界は、今も国境線を中心とした衝突地域が増えつつあります。このような諸々の紛

争地域によって、世界は途方もない人命被害と、数十億ドルに達する戦争費用と平和維持費を注ぎ込んでおり、あまりにも多くの資源と努力を消耗しています。これに比して、ただの一か所として満足に解決の進展を見せる場所はありません。

　私はこの場で、国家を代表する国連と宗教指導者が心を合わせ、すべての国境地帯に平和地区をつくることを提案するものです。山や川、あるいは平原であると海であるとにかかわらず、国境線と紛争地域の付近一帯を緩衝地区、すなわち平和地区にするという案です。

　この場所は、国連の直接的な統治と管轄下にあるようになり、ここで全世界から平和定着のために集まってきた人々が暮らせるようにするのです。国連は、ここが国連の創立趣旨と、引き継がれてきた平和宣言の内容に符合する最も模範的な地域になるよう指導しなければなりません。

　このような平和地区は、平和と繁栄、和解のための安息所です。そして、人種と性の差別がなく、人権の侵害と戦争から解放された典型的な地域です。さらに、ここは生態学的にも環境的にも、万象にとって楽園のような場所とならなければなりません。

　このような平和と自由、生態学的な調和を追求する地域を確定するためには、該当国家が国土の一部を提供しなければならないという問題があります。私は、この提案にとって障害になりうる実質的な問題点を解決するため、少なからぬ努力を傾けてきました。

　私は、冷戦体制の犠牲になった韓半島の分断と戦争には、摂理的なみ旨がある、と教えてきました。朝鮮戦争は、平和守護のために、世界十六か国の若者たちが国連の旗の下で血を流した、歴史上類例のない聖戦になりましたが、まだ平和統一は、未解決の課題として残っています。私が、摂理観に立脚して、平和世界実現のための国連の厳粛な使命を考えるのも、このためです。

　去る６月から進展した南北韓の和解と協力のムードが、このまま続いていくことを切に願います。南北が対峙してきた、韓半島の155マイル軍事境界線周辺の緩衝地帯全部を、国連管轄下の平和地区にし、そこに、人類が教訓を得ることのできる展示館と博物館、教育の場と平和公園などをつくることにおいて、国連が率先してくださることをお願いします。

　私は、これまで南米のメルコスル地域に、約百二十万ヘクタールに達する肥沃な土地を購入しつつあります。国連平和地区設定によって喪失した国土の代わりに、これを補償するためです。韓半島の南北指導者たちに、その一部を寄付すると通告もしました。

　私は、このような内容を明らかにすると同時に、心ある世界の指導者たちが、私が提示した趣旨に同参してくださるよう訴えるものです。そして、私とともに、国連管轄区域となる平和地区確保のために、自らの土地と基金を喜んで寄附できるようにお願いします。平和地区は、国連の指導下で、自然と人間が共存する理想的な道義社会として建設されることでしょう。

　この世界に生きている、すべての宗教者が心情的に一つになるならば、基金の募金に積極的に同参するばかりでなく、このように集められた基金によって平和地区を造成し、平和に対する理想と知恵を教えるのに用いることができることでしょう。 　国連は、宗教者だけでなく、すべての国々に対して毎年、自発的に平和基金（例えば「白十字会費」という名前で）を納付するように指導することができるでしょう。

　富裕な博愛主義者や経済界指導者、企業人をはじめとして、各界各層の指導者と団体、そして個々人たちも国連平和地区建設に積極的に加担し、世界的な平和ムード造成と募金運動をするうえで、率先しなければならないのです。

３、父母の日、家庭の日の設置

三つ目の提案は、「真の父母の日」を制定し、世界的な祝祭日として記念し、同時に、「真の

家庭の日」を二つ目の世界的な記念日として制定することを提案するものです。人種と宗教、

文化を超越して、だれでも愛することができ、大切に思うことのできるこのような日を、皆一緒に慶祝することによって、私たちは、人間としての共通した真の根を確認し、真の家庭の大切さを確認できるようになるのです。併せて「国連軍の日」を制定し、国連の正義と平和維持軍の神聖な使命を宣揚するようになることを願います。

全文はこちら ⇒ <http://malsm.info/private/mlsm/20000818.htm>

（注補１：この平和ソーン設置の提言は１９８2年11月ソウルでの第10回ＩＣＵＳで提唱された国際ハイウエイ構想に源流がある。また2005年1月、「日韓文化交流会議」に韓国側団長として来日された金容雲博士は、38度線の非軍事化の構想を熱い思いを込めて語られた。）

（注補２：第3の提言、真の父母の日、真の家庭の日の提案は、2012年9月17日、国連で毎年6月1日を「世界父母の日」とすることが採択され、2013年より実施されている。

（注２）「平和を愛する世界人として」創芸社2009．10.2、Ｐ３０４

　（注３）Robert Muller氏は国連事務総局次長として3代の国連事務総長に仕え、８５％以上の国連機関を設置、「国連の哲学者、Mr. UN」と呼ばれた。

<http://www.e-gci.org/network/Muller.html>

（注４）北東アジアの平和構想

1. 高句麗古墳のユネスコ世界遺産の登録

北朝鮮は、2000年頃から画家の[平山郁夫](https://ja.wikipedia.org/wiki/%E5%B9%B3%E5%B1%B1%E9%83%81%E5%A4%AB)の支援で、遺跡の世界遺産登録を働きかけていた。当初、2003年には登録される見込みであったが、中国が北朝鮮の単独登録に反対。吉林省にある高句麗遺跡の登録申請を行った。その経緯で、両遺跡が2004年の同時登録という形になった。北朝鮮と中国の間に、高句麗地区の領土問題が存在することが改めて認知された。

<http://globe.asahi.com/feature/090302/01_3.html>

<https://www.youtube.com/watch?v=GnAf5B8dum4&feature=player_embedded>

1. 韓国、北朝鮮、日本3国を非核ゾーンとし、世界平和のリーダーシップを!

「核保有を宣言した国で、核を放棄した国はありません。日本、韓国が米国「核の傘」の中にいる以上、北朝鮮が世界で初めて核を放棄するには、日本・韓国とともに人類の歴史に対して責任を果たすという、シナリオが必要です。

　どこの国もそうですが、核大国である中国、露国、米国も、国内に大きな問題を抱えています。国内の対立が臨界点を超えれば、核は最も危険な存在になります。この可能性を回 避するためにも、朝鮮半島と日本列島の非核化は、核大国、保有国に、比類なき影響を与え、紛争地帯に希望と勇気を提供できるはずです。これをもとに平和構築のノウハウを確立することができれば、環日本海圏は、世界から最も期待される地域になるはずです。これこそが戦後、繁栄を享受してきた日本と韓国の果たすべき役割ではないでしょうか。」

　　小松昭夫・小松電機産業株式会社　社長 一般財団法人人間自然科学研究所理事長

<http://www.hns.gr.jp/index.html>

1. 国際ハイウエイ・日韓トンネルプロジェクト　<http://ihf.jp/>
2. アジア平和貢献センター <http://www.asianpeace.jp/japan/>
3. 東アジア共同体の試み

（注５）：**ＰＷＰＡ創立10周年記念講演、第1回世界平和教授協議会世界大会、**

1983.12.18 Seoul）　ここで文先生は、絶対平和は神の愛を中心としてこそなされることと、今後10年間の平和事業プロジェクトを紹介された。以下はその骨子

絶対的価値基準の確立の必要性

　１）PWPA　：　「平和」　→真の愛＝絶対的価値

　２）ICUS　　：学問: 没価値的な方法論と研究結果→策略家が利用→人類の危機

　　　　　　　　　絶対的価値⇒諸価値の基準⇒全ての学問の基準

絶対的価値の必要性

1. 人類の本性が願う共同理想を実現する基準、　×自由主義
2. 善を指向する人類の本性
3. 世界が一日生活圏、地球村

記念講演の全文⇒ <http://www.owaki.info/shiryo/10PWPA/19831218.html>

**第10回ＩＣＵＳ　1982.11, Seoul**

ここで文先生は絶対的価値としての神の愛を紹介されると共に、具体的提案として国際ハイウエイ、日韓トンネルプロジェクトを提唱された。「何のなんのための科学か？」を追求して来たＩＣＵＳにとって、「世界平和実現のための科学」の面目を施した歴史的提言であった。

基調講演、全文はこちら⇒ <http://www.owaki.info/shiryo/10ICUS/1981%2011.html>

(注６)「北東アジアの平和と安定のための政策提言」

May 26-28, 2005 in Moscow, 2005 Moscow, Russia,

International Conference on Innovative Approaches;

To Peace and Stability in Northeast Asia

日文：<http://www.owaki.info/teigen/ProposalNEA_J.doc>

英文：<http://www.owaki.info/eastashia.html>